

5G オープン RAN エコシステムに 日本ヒューレット・パッカード合同会社が新たに参加 ～2022年度の商用化実現に向け、パートナー連携を強化～

株式会社 NTT ドコモ(以下、ドコモ)は、オープンな無線アクセスネットワーク(以下、オープン RAN)の海外展開を目的とした「5G オープン RAN エコシステム」(以下、本エコシステム)の協創に向けて、本エコシステムの既存パートナー12社^{※1}に日本ヒューレット・パッカード合同会社(以下、HPE)を新たに加えて議論を開始します。

ドコモは、本エコシステムにおいて、長年オープン RAN を推進し、世界で初めてオープン RAN を 5G において実用化したノウハウを活用、パートナーが持つ強みを最大限に発揮、融合させることで、オープン RAN の普及につながる柔軟で拡張性が高い仮想化基地局(以下、vRAN)の 2022 年度の商用化、海外通信キャリアへの提供に向けた取組みを推進しています。

また、HPE を加えた本エコシステムのパートナー13社と共に構築するオープン RAN では、2021 年度末までに現状の vRAN に比べて伝送速度・セル^{※2}数を 3 倍以上に拡張し、さらに消費電力の 2 分の 1 以下への削減をめざして、2021 年 10 月より vRAN の性能評価などの検証を開始します。

HPE は、本エコシステムにおいて、これまで培ってきたサーバー技術を中心に上記性能目標の実現に貢献することで、海外通信キャリアのニーズにこれまで以上に柔軟に応えることが可能となります。

ドコモは、横須賀のドコモ R&D センタに設置する検証環境を 2021 年度末までに海外通信キャリアが遠隔で自由に利用可能とすることで、海外通信キャリアも含む幅広いステークホルダーとの連携をさらに深め、多様化するニーズに柔軟かつ迅速に応えられるオープンネットワーク、特にオープン RAN や vRAN の早期普及に向けて、技術やノウハウの確立に貢献してまいります。

※1 「既存パートナー12社」とは、NVIDIA、Qualcomm Technologies, Inc.、Wind River、Xilinx、インテル株式会社、
ヴァイムウェア株式会社、株式会社 NTT データ、デル・テクノロジーズ株式会社、日本電気株式会社、富士通株式会社、
マベニアおよびレッドハット株式会社です。

※2 「セル」とは、一つの基地局がカバーできるエリアの範囲です。

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

株式会社 NTT ドコモ
R&D 戦略部 グローバル技術推進室
5g_open_ran_ecosystem-ml@nttdocomo.com